

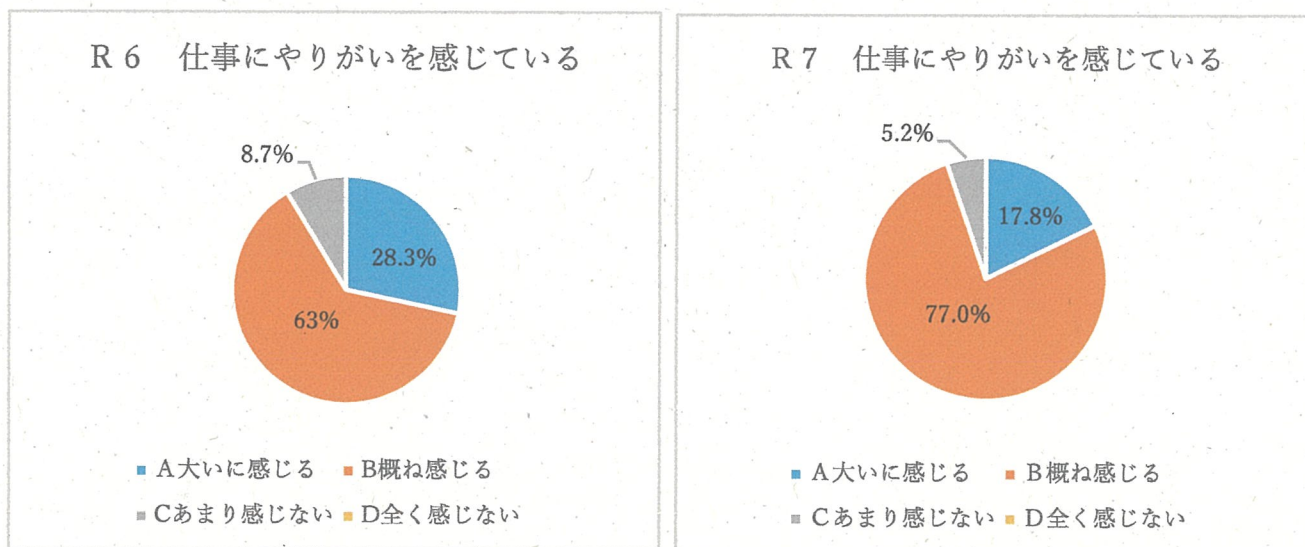
# 令和7年度TCPトリビンスプランアンケート結果〈教職員・子供〉 ～R6年度比較～

令和7年度実施期間 令和7年9月25日(水)～10月3日(金)  
令和7年度 回答数 教職員 135人・児童 1335人、生徒 757人

## (1)各指標に対する評価・達成状況

### ◆教職員が授業等に専念できる環境づくり

#### 指標1 仕事にやりがいを感じている教職員の割合 100%

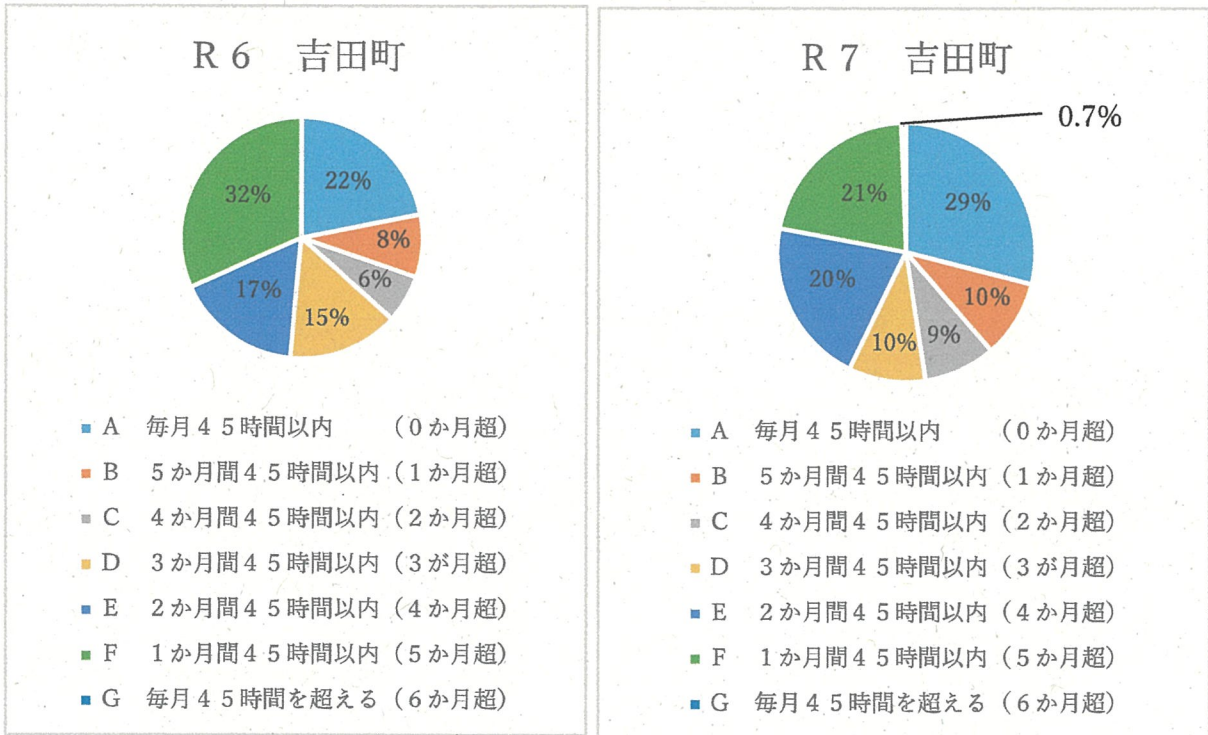


#### 〈Aの主な理由〉

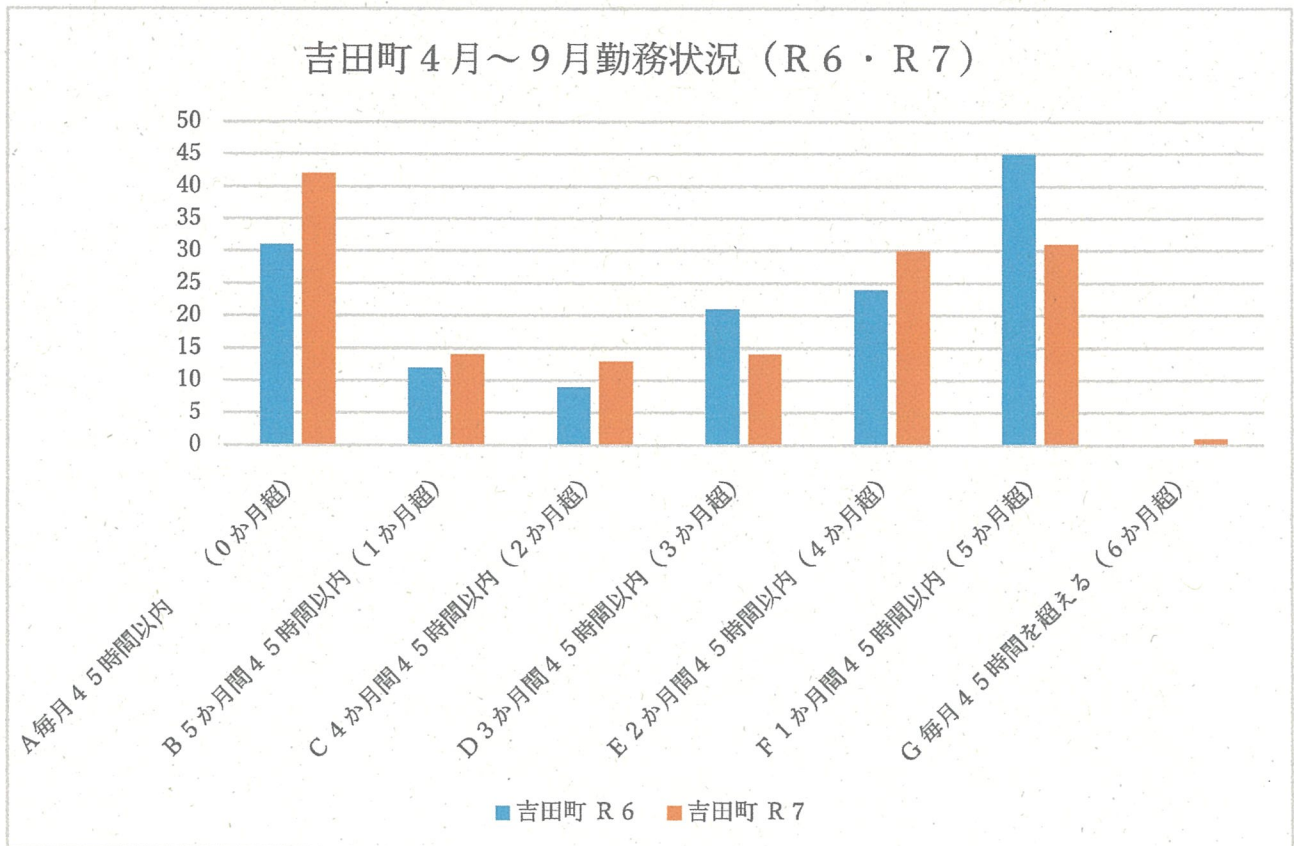
- ・生徒の成長を感じられるから。また、生徒や他の職員との関りを通して、自分の成長  
感じられるから。
- ・仕事を頑張ることが直接授業の充実につながるから。
- ・子供の成長を近くで感じることができ、その成長のためにどんな手立てをとっていか  
うか考え、実践していく楽しさがあるから。  
1時間ごとの授業について構想しながら取り組めることが多い。
- ・自分が準備したり考えたりした授業で、子供が生き生きと授業をしている姿や成長し  
た姿を見ると嬉しく感じるから。
- ・児童の成長を間近で見守れることや、責任ある仕事を任せていただけることにやりが  
いを感じるから。
- ・忙しいが、その分充実していると感じるから。
- ・通級指導教室は1対1での授業が基本で、その子供に合った適切な支援・指導ができ、  
成果が表れた時に喜びを感じることができるから。
- ・子供たちに寄り添い、成長のお手伝いをする本職に誇りをもっています。
- ・経験から得た授業技術、学級経営手法等が通用している（だろう）と感じること。  
標準以下だとは思いますが、ICTの特性を取り入れた授業実践ができていること。
- ・求められている仕事は奥が深いものである。大いにやりがいを感じている。解釈しな  
がら進めていく。

指標 2 時間外勤務時間が月 45 時間以内の教職員の割合 100%

6か月間の内、時間外勤務時間が月45時間以内であった月数の人数割合

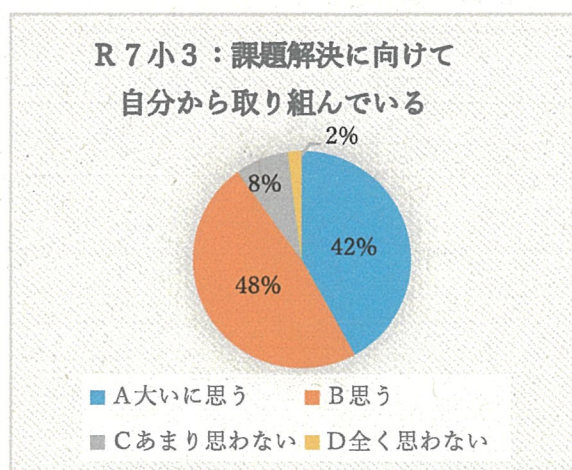
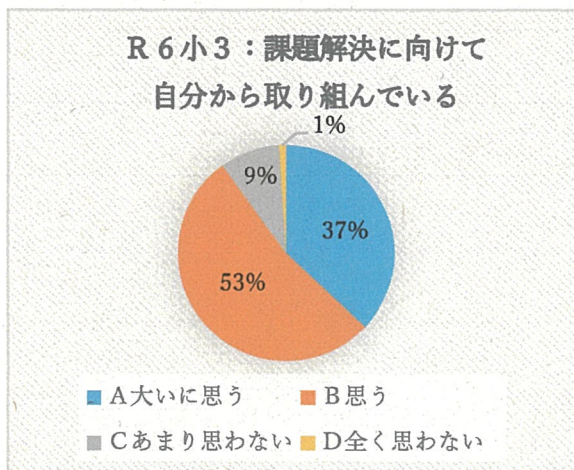
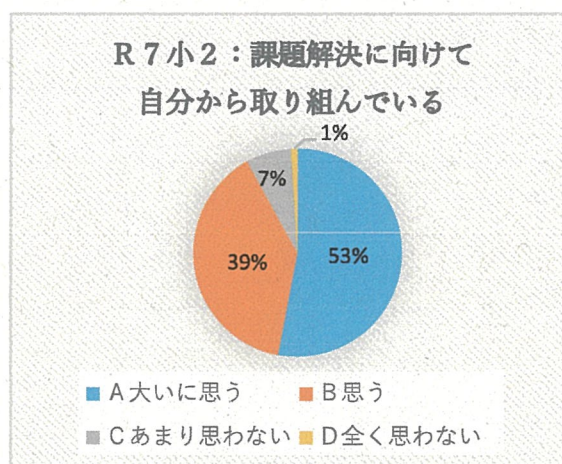
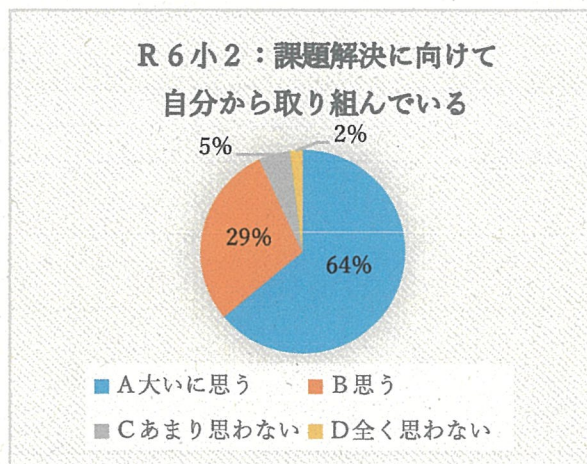
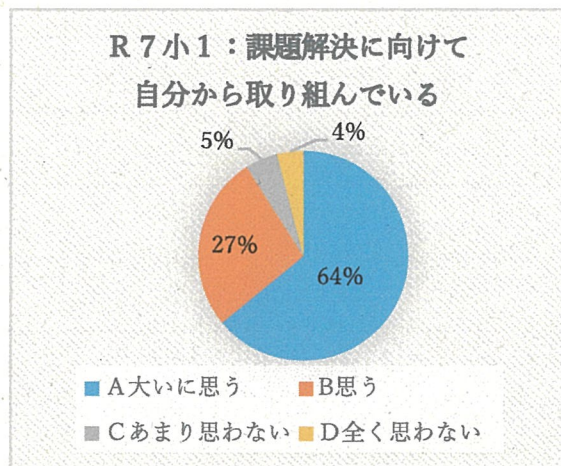
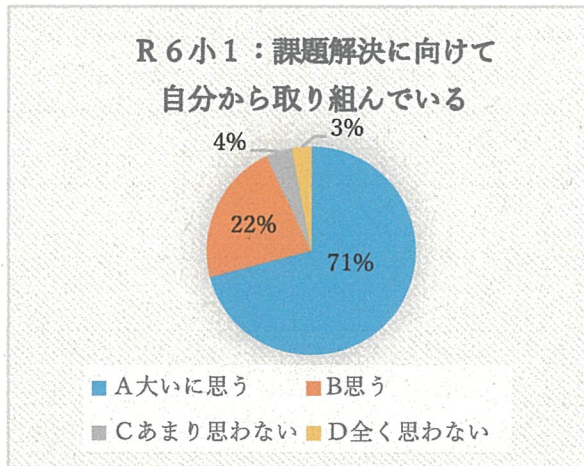


6か月間の内、時間外勤務時間が月45時間以内であった月数の人数分布

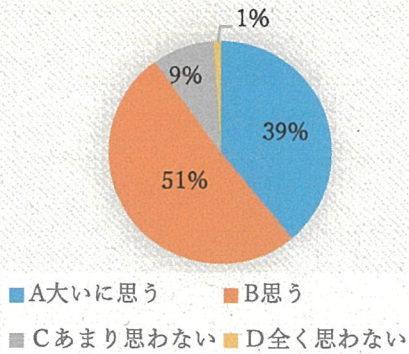


◆子供の「確かな学力」を保障する環境づくり

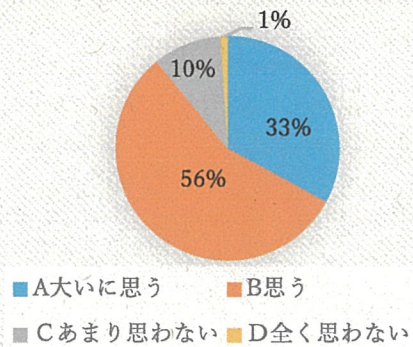
指標1 課題解決に向けて自分から取り組んでいると感じている子供の割合 80%以上



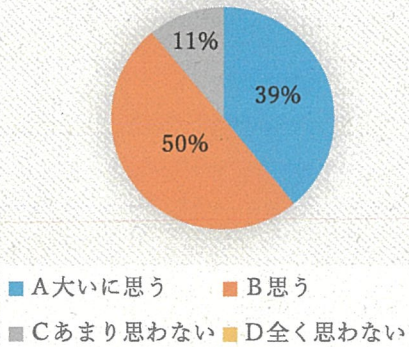
R 6 小 4 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



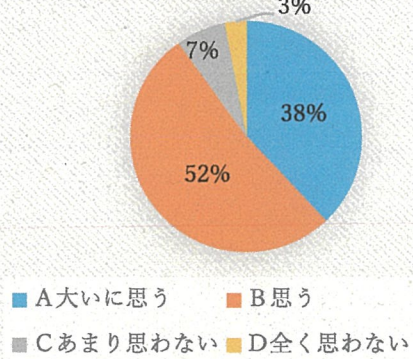
R 7 小 4 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



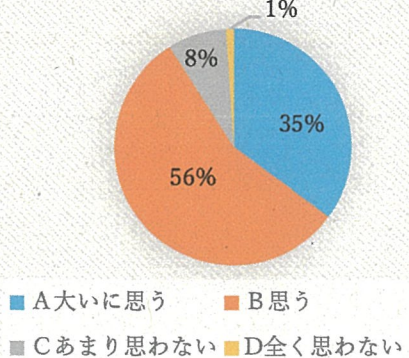
R 6 小 5 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



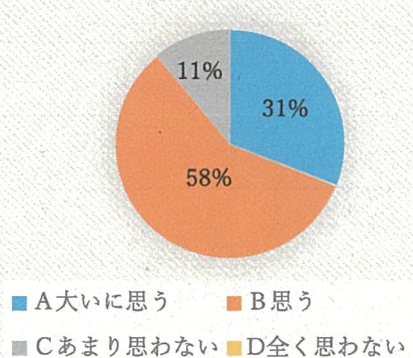
R 7 小 5 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



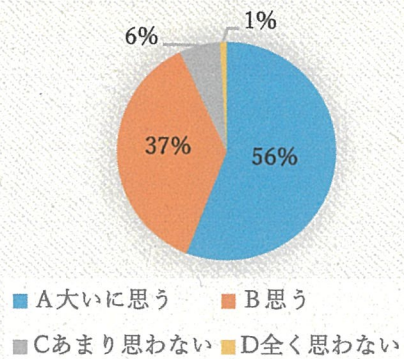
R 6 小 6 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



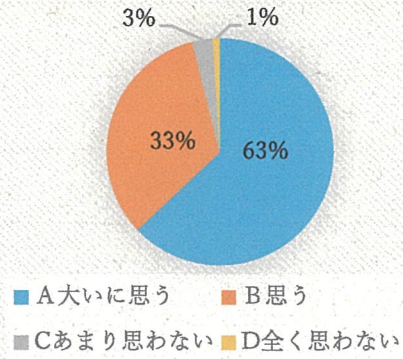
R 7 小 6 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



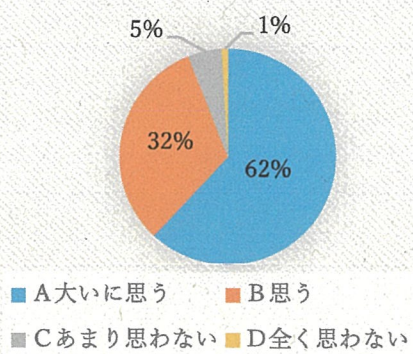
R 6 中 1 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



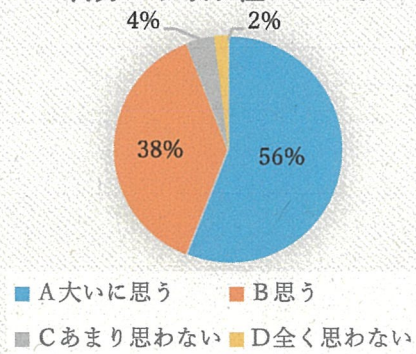
R 7 中 1 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



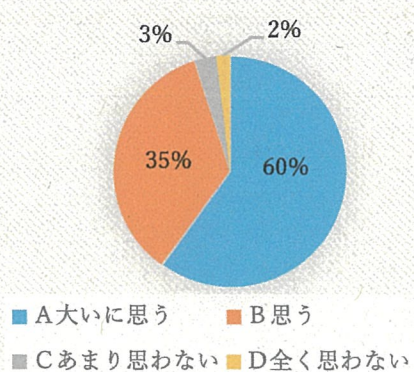
R 6 中 2 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



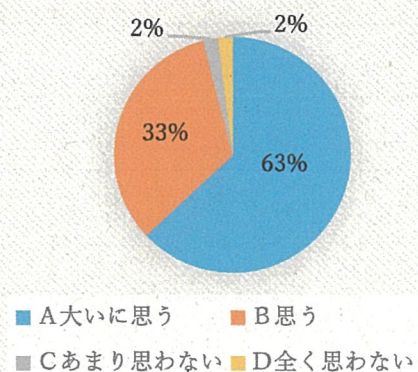
R 7 中 2 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



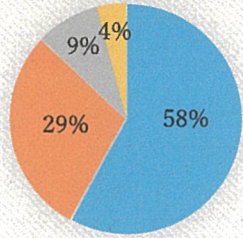
R 6 中 3 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる



R 7 中 3 : 課題解決に向けて  
自分から取り組んでいる

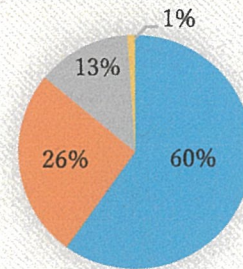


R 6 小学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



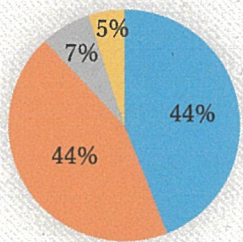
■ A大いに思う  
■ B思う  
■ Cあまり思わない  
■ D全く思わない

R 7 小学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



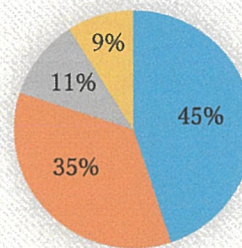
■ A大いに思う ■ B思う  
■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

R 6 中学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



■ A大いに思う ■ B思う  
■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

R 7 中学特別支援：課題解決に向けて自分から取り組んでいる



■ A大いに思う ■ B思う  
■ Cあまり思わない ■ D全く思わない

指標 2 全国学力・学習状況調査の平均正答率 県平均以上

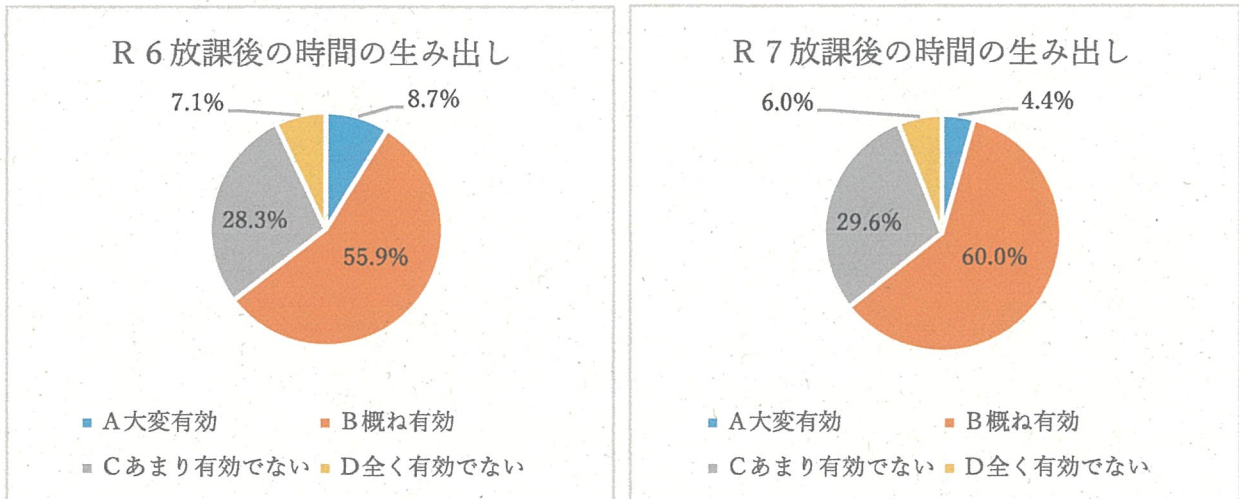
学年	教科	吉田町	静岡県	県差	全国	全国差
小 6	国語	63.9	66.0	-2.1	66.8	-2.9
	算数	52.4	57.1	-4.7	58.0	-5.6
	理科	50.2	55.3	-5.1	57.1	-6.9
中 3	国語	53.2	56.3	-3.1	54.3	-1.1
	数学	45.0	51.0	-6.0	48.3	-3.3
	理科 (IRT)	497	527	-30	503	-6

〈令和 7 年度全国学力・学習状況調査結果より〉

## (2)各施策に対する評価

### ◆「教職員が授業に専念できる環境づくり」に向けた施策

#### ア 放課後の時間の生み出し



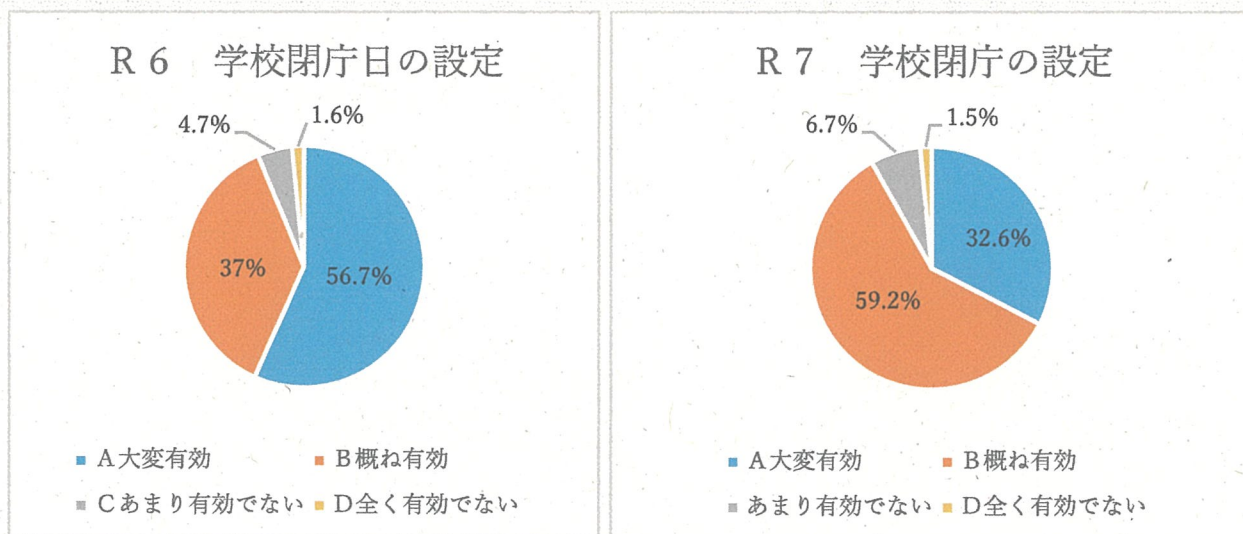
#### 〈Aの主な理由〉

- ・ 4時間授業日を設けており、児童の下校時刻が早いので、教材研究や校務分掌について考える時間にゆとりがあると感じるため。
- ・ A週金曜日の設定により、時間を生み出すことができたため。
- ・ 勤務時間内に自分の仕事ができれば、その分退勤時間が早くなると思うから。
- ・ 6時間授業が少ないこと、4時間授業日が設定されていることなど、物理的な時間の生み出しはなされていると考えます。今後は、一人一人の先生方がどのように仕事と時間を管理していくかが課題になるのではないかと思います。
- ・ 放課後の時間に準備をする時間が確保されているからです。
- ・ 陸上競技部は指導員さんが担ってくださっているので、かつてよりも時間が生み出せているから。

#### 〈Dの主な理由〉

- ・ 研修が多く、丸付けや学年だより等の業務が時間外になってしまっている。
- ・ 放課後にあらかじめ（会議等が）設定されていることが多く、自由に使える時間が限られている。
- ・ 部活動指導や会議などで勤務時間が超過してしまうから。
- ・ 基本的に放課後の時間は生み出されていない。
- ・ ほぼ毎日何かしらの会議、研修等が入っている。何もない日の方が珍しいです。
- ・ 急な打合せ、会議、面談などが入る。
- ・ モジュールの実施は放課後時間を生み出すことにつながらず、15分では探究的な学びを実施しにくい。
- ・ 設定自体はありがたく感じますが、実際に週に1回は放課後に何もない日がほしいです。毎週、何かしらの業務があります。
- ・ （放課後の時間を）生み出しても、研修とか行事の準備などで消えてしまう。
- ・ 放課後にやる仕事や研修がとても多く、仕事が軽減したとは思えない。

## イ 学校閉庁の設定



### 〈Aの主な理由〉

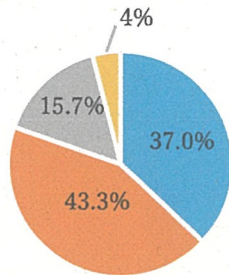
- ・校舎の見回りの業者を配置していただけるため、気分的にもゆっくりと休むことができる。また、他市町に比べ閉庁日が長いため、心身共にリフレッシュできる。
- ・夏休みに休みをまとめて取れることで、人間ドックや定期受診に当てることができている。家族との時間を取ることもできるようになった。
- ・他地区に比べて夏休みが短いため、閉庁日はありがたく思っています。ただ、近年の暑さの対応を考えるとどうしていくのがよいか考えていく時期かもしれないと思います。
- ・気持ちの面で、学校の業務と休暇の切り替えが明確にできるようになりました。（本日は休みであると割り切る心を後押ししていただいています）
- ・予算をつけてくれていることに感謝している。教職員が落ち着いて休みがとれる機会を創出していただいている。
- ・閉庁日とそれに伴う巡回警備があることで、確実に長期休業中の日直業務が減り、目に見え、実感を伴って負担軽減が実現していると思います。ただ一方で、職種によっては閉庁期間の中で必ず行はなくてはならない業務のために、閉庁中に出勤せざるを得ないケースもあります。閉庁期間が少し短くなると調整の必要もなくなり、更に有効であると考えます。期間の決定については、関係各所との調整を行っていただけるとありがたいです。
- ・教材研究に専念できるだけの閉庁期間が設けられているため。

### 〈Dの主な理由〉

- ・疑問に思うのは、学校が閉庁していて、その日の休みを夏季休暇、年次休暇を消費して休むという点です。例えば、閉庁日が5日以上あり、夏季休暇が5日しかなく、足りない部分を年次休暇で補うことがあるのですが、表向きに学校が「来てはいけない」となっている日に「年次休暇を消費しなければならない」となっていることに問題があるように思います。
- ・閉庁日が7日、夏特休暇が5日。2日間、年休を指定されて使うことはおかしくないか。また夏特休暇は「使用者がこの日にとりなさい」と指定する休暇なのか。その辺がよくわからない。

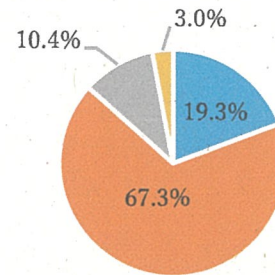
## ウ 校務支援のための環境整備

R 6 校務支援のための環境整備



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

R 7 校務支援のための環境整備



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

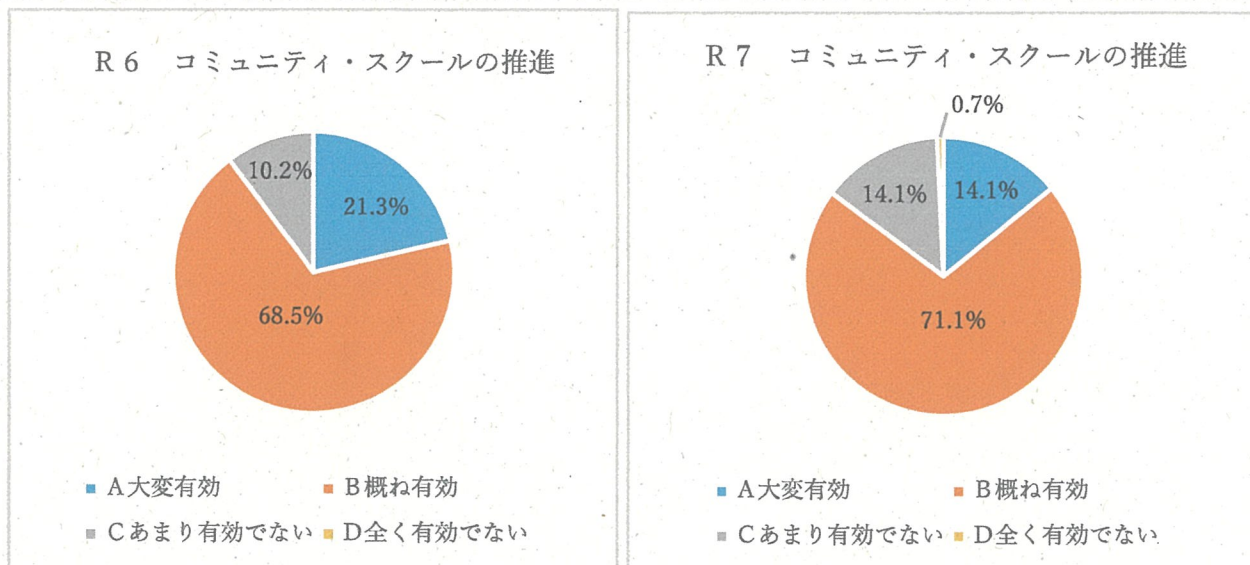
### 〈Aの主な理由〉

- ・トイレやエアコンなど快適に学習に取り組める環境が整っており、有り難い。
- ・SSSやICTサポーターなど、教員業務を支援する環境が整っているから。支援員の方々のおかげで本来の業務である授業づくりに専念できる環境にあると思う。
- ・校務DXの観点から、クラウドでつながっていることで働き方にもよい影響があって、環境の整備が進んでいると強く感じた。
- ・ICTを活用した環境が整備され、効率的に校務を行うことができているため。
- ・多くの人を配置してもらえているのがありがたい。留守電の対応の時間を勤務時間外に増やしてほしい。
- ・Wi-Fiが問題なく全員で使えることは非常にありがたい。
- ・クラウド活用で場所を選ばず校務が行える環境はありがたいです。ただ、時間を選ばないという点については業務時間もあり、「いつでもできるよね?」ということありきで業務が進められている気もします。関連して、チャットの活用方法についても、よさを感じる一方で、負担感を感じる方もいるため、協議したり意見を集約したりする機会を設けた方がよいと思います。
- ・テスト印刷や採点補助、細かな事務仕事などをお願いできる人材が配置されており、実際に仕事を軽減できているから。

### 〈Dの主な理由〉

- ・限られたPCでしかオフィスを使えなかったり、成績や出席簿などでツムギノの不具合があったりと、その対応に余計時間を取られるようになった。
- ・Windowsパソコンがないため、過去の資料を活用しにくい。外部から送られてきたWord文書を開くのに困る。文書作成が困難。
- ・中学校に大型印刷機がほしいです。温かい学級掲示などのために非常に有効だと思います。町内に一台しかないのは明らかに効率が悪いです。
- ・人手というならば足りていると思うのですが、印刷物も減り、テストの採点（これは寧ろ教員としては任せてはいけない）も頼むことがなくなっていて、今はどちらかというと「管理職の手助け」になっていることが多いと思うので、一般の教員の手助けという側面が薄れてきていると感じます。

エ コミュニティ・スクールの推進



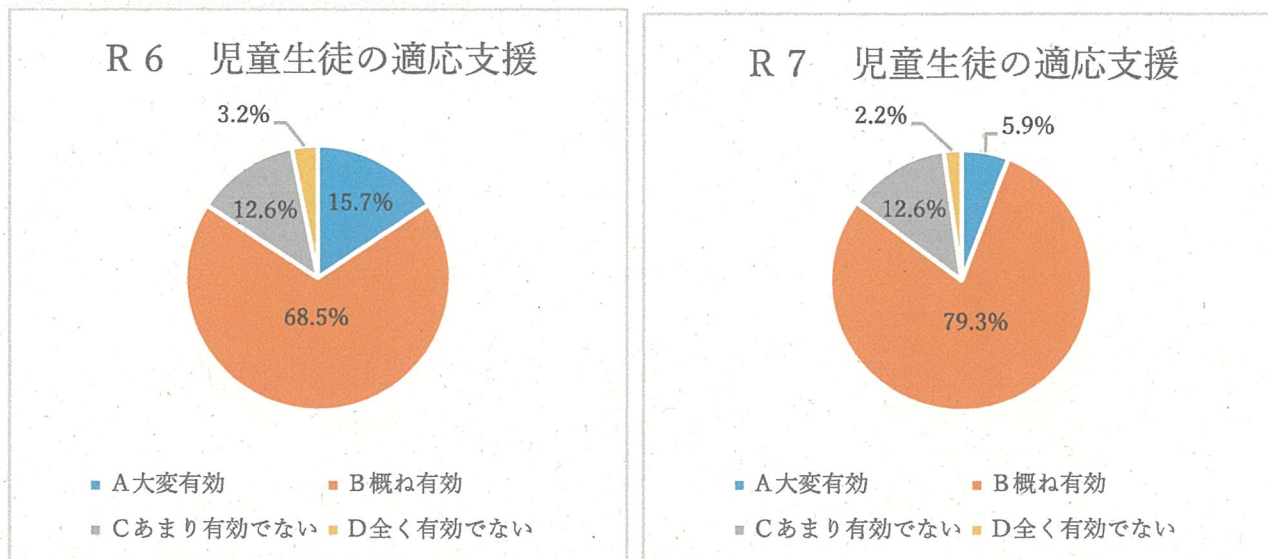
〈Aの主な理由〉

- ・ CSDさんのおかげで校外学習を設定することができたり、やりたい活動ができたり、本当にありがたい。
- ・ 学校と地域が一体となって子供たちを育てていこうとする、よい関係と取組があるから。
- ・ 通級指導教室では授業で活用させていただき、子供や保護者からも感謝の言葉を聞いています。
- ・ CSDさんには非常に助けてもらっています。外部講師の依頼は本当にしやすくなりました。ここにICTをちゃんと活用すれば、よりスムーズにすることも可能だと思います。
- ・ これまでは自分たちで行っていたことを助けていただけれることで、より幅広い内容になっているように思う。
- ・ CSDの方が精力的に動いてくださっているから。
- ・ CSDさんが精力的に動いて関係者とのパイプ役になってくださっていることを大変ありがたく感じている。
- ・ 今まで教員が時間を作ってやっていた地域人材の活用の交渉を、一手に引き受けてくださっていて、大変感謝しています。
- ・ 地域人材・地域支援の活用が大いに進んできた。また、学校内にも地域の意見を吸い上げようとする意識が高まっている。
- ・ CSDが地域の材を見つけて、教職員へつないでくれている。特に、個々の得意分野を生かすための講師を地域から見つけて、適応指導教室や総合的な学習の中で講話や指導をもらえており、個々に対応した学びの場を作ることができている。

〈Dの理由〉

- ・ 浸透していないと感じる。

## オ 児童生徒の適応支援



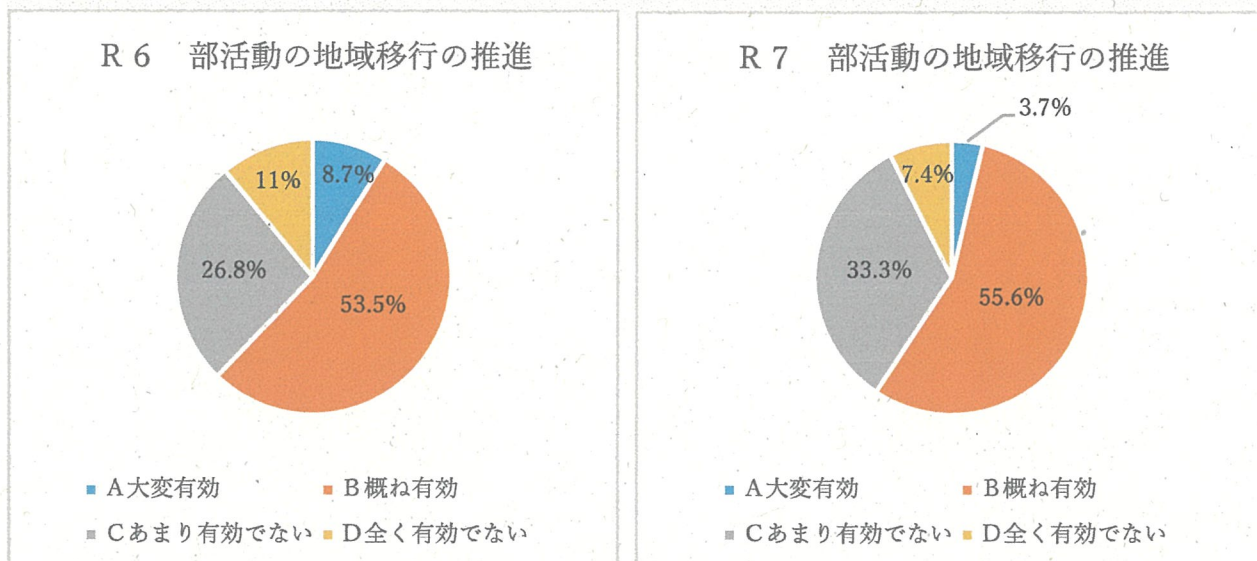
### 〈Aの主な理由〉

- ・言葉の教室や通級指導、外国人支援、カウンセラーさんやソーシャルワーカーさんなど、様々な人が関わってくださることで、子供の困り感が軽減されていることがありがたいです。
- ・県費の支援員だけでなく、町費の支援員の方もおり、児童への手厚い支援ができていると思うから。
- ・生徒指導で困っている児童について、どのような支援をしていくことが有効なのか、いつでも相談できる環境があるから。
- ・人的資本が充実している。
- ・各学校に通級指導教室が設置されたことは、児童の大きな支援になっている。今後、ステップや校内適応支援教室の運営改善がなされることで、さらに支援体制が強化されると思います。
- ・巡回相談の回数を以前よりも増やしていただき、ありがたいからです。緊急的に必要になった場合も助けていただいています。
- ・人的配置に配慮がなされていることで、子供の居場所があるなど感じています。ただ、外国籍児童・生徒への対応については、保護者への支援も含め、ポルトガル語、フィリピン語の通訳さんが常駐あるいは週3日程度いてくださると教育面、事務手続き面で更にスムーズな運営ができると考えます。（日数が増えるのならば、1日の勤務時間は2時間程度等でも十分かと、日々感じています。）

### 〈Dの主な理由〉

- ・人材が不足している。必要な生徒に支援がいていないと感じる場面が多い。
- ・外国籍の児童が増えているのにも関わらず、通訳や支援の体系がかわっていない。
- ・本校は外国人児童が多い傾向にありますが、支援は全く足りていないと思います。人手も人材的にもかなり不安があります。
- ・支援の人がたりていない（特に午後）。場所がたりていない。
- ・担任だけでは支援が行き届いていない。

## カ 部活動の地域移行の推進



### 〈Aの理由〉

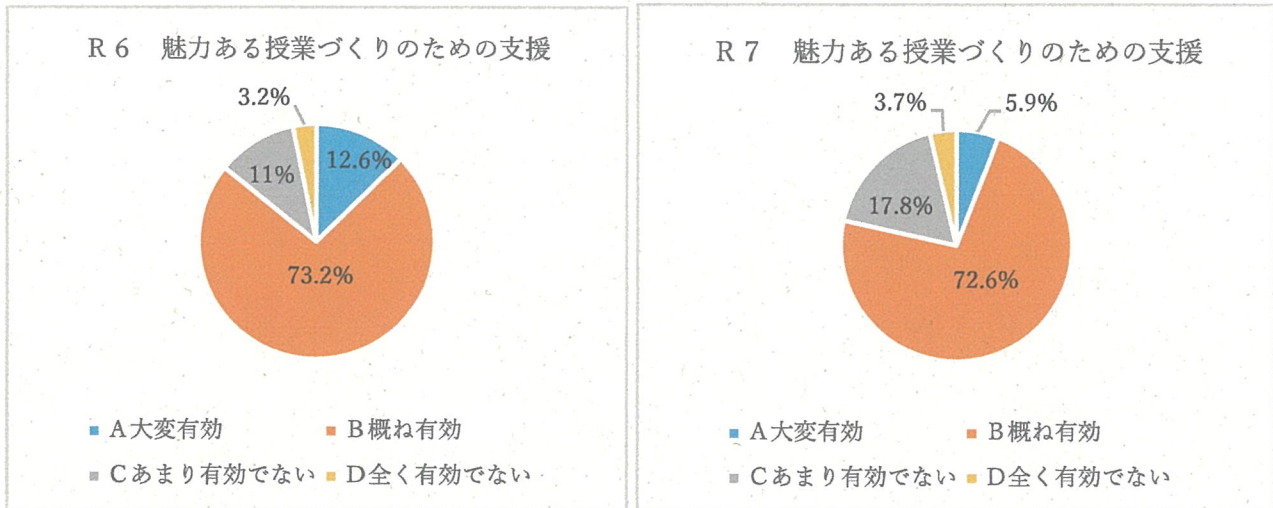
- ・教員の時間の面や体方面においてとても助かります。

### 〈Dの主な理由〉

- ・先行き不透明で、わからないことが多い。
- ・結局あまり変わらないのではないかと思うのと、見通しが見えないため。
- ・指導員を配置しても、そこに顧問が携わらなければいけないのなら、あまり変わらないと思います。方向性は教員にとって非常によいことではあります。子供にとってはわかりません。私が学生の頃に部活の顧問の先生との関りに救われたことが多かったので。午前授業、午後は部活動というくらいの思い切ったやり方が多様性を重視した教育活動にはふさわしいと思います。(外部の指導員に見合った報酬を渡せていないことも鑑みて)
- ・地域移行がどのように進んでいるのか、今後どうなっていくのかが全く見えてこない。
- ・今は準備段階なのでしょうが、現在目に見える改善は全くないと思います。
- ・情報収集不足もあると思いますが、実態がよくわかりません。
- ・現在進行している形の地域展開方法で、教員の負担が軽くなる気がしない。平日の負担と土日に指導する指導者との調整や連携などの負担は減らないと思う。
- ・部活動を指導したい先生や送り迎えができず学校で部活を行いたい生徒もいるので、やりたいことができるように選択肢に幅があるとよい。
- ・勤務時間外の部活動時間があることで、退勤が遅くなっていると考えられるから。
- ・人材が揃わず、移行できる気がしない。
- ・結局、教員が絡んでいたら変わらない。しかも数年先の話をしているが、その間の負担はどうなるのかが不安。

◆「子供の『確かな学力』を保障する環境づくり」に向けた施策

ア 魅力ある授業づくりのための支援



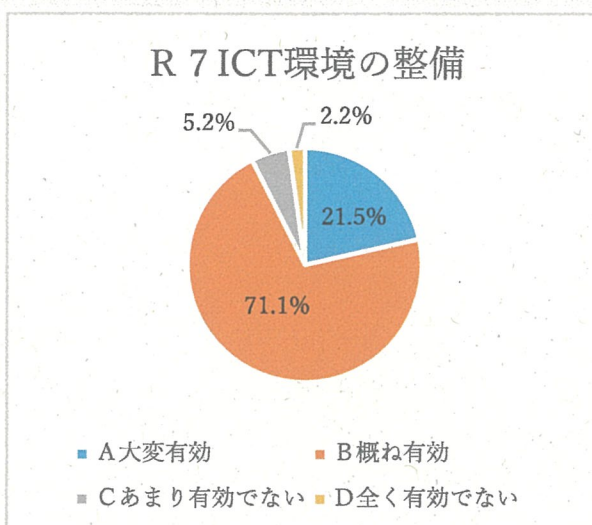
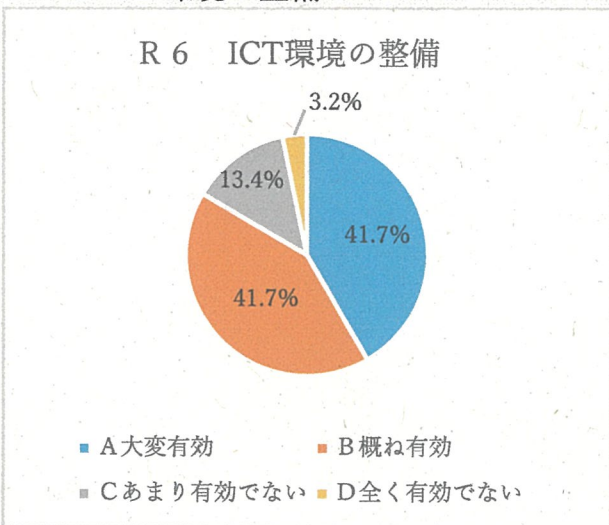
〈Aの主な理由〉

- ・ 十分だと思う。全国に先駆けて走ってきたが故に、理解や使用度がある意味「個別化」し「差」が開いている。デジタル学習基盤があるから、「本質的な学び」＝「魅力的な授業」になると思っている。そのためには、あまり活用していないベテランやミドル層も参加したくなるような雰囲気づくりを継続して行っていくべき。
- ・ 司書さんが常駐してくださっていることで、欲しい本がすぐ手元にきたり、読みたい本がすぐに見つかったりし、学ぶ意欲が削がれることなく学習でき有り難い。
- ・ 研修で学ぶ機会がたくさんあり、チャットで学び合う環境がある。
- ・ 各校がめざす授業を明確にして取り組んでいる。大学教授による定期的な授業参観や全教職員研修会は授業改善の刺激になっている。
- ・ 専門的な話がしっかりある中で、研修が進められている。

〈Dの主な理由〉

- ・ 頻繁な研修とトップダウン的でかなり偏った進め方、広め方が教員のやる気と多忙感を促進していると感じます。他地区の教員で吉田で働きたいと言っている人を見たことがありません。むしろ行きたくないと言われている現状に危機感をもつべきだなと思います。
- ・ 全教職員研が中学校にとって高い価値を感じない。年4回やることで授業時数や授業計画に負担が増える。取り入れていけるもの取り入れたい要素が少ない。
- ・ 全教職員研修会の実施により校内研修の推進や機会が減ってしまっている。
- ・ 町で推進している研修で子供に「確かな学力」がついていると思わないから。文章を読み取る力や文章で表現する力、他と関わるコミュニケーション力など、身に付けるべき基礎が身につけていないことを感じる。
- ・ ICTを使わなければいけないという雰囲気になっている。魅力的になっているのか。教育委員会が指導だけで支援がない。
- ・ 全国学調の結果や定期テストの結果、生徒の様子を見ると、「確かな学力」が保障できているとは言えないと感じるためです。

## イ ICT環境の整備



### 〈Aの主な理由〉

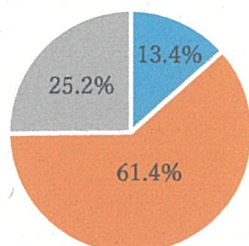
- ・ 欲張ってしまうが、十分整えてもらっている。後は使いたくない方への心のケア。使ってみよう、使うと便利、授業が変わったなどの段階を踏めるように学校や教育委員会でサポートしていけたらよいと思う。心配なのは継続と更新。この環境を安定的に提供していただけたらと思うが、その見通し（3年後、5年後などのビジョン）を持っていただき、それを示していただけたらありがたい。
- ・ Wi-Fi環境やICT機器が整っているから。
- ・ (株)オカムラさんの迅速な対応に助けられているから。
- ・ ウィンバードを再契約していただくなど、現場の声を聞いて動いてくださる。
- ・ 一人一台端末の活用によって、また校務DXを進めている関係で、端末を使うことが当たり前となった日常の中で、教師も有効に活用できているのを感じる。
- ・ クロムブックとセカンド端末の使用により、迅速に業務をこなすことができる。
- ・ ICT環境を整備することで、個別最適な学びが保障されるだけでなく、子供たちの「学びたい」に応えることができている。
- ・ 電子黒板、校務用端末、セカンド端末など、非常に恵まれた環境だと感じます。
- ・ 他地区に比べ、ハード、ソフトともに充実しているから。
- ・ 輻輳が以前と比べて起こりにくくなりました。
- ・ 環境整備には大きなありがたみを感じている。

### 〈Dの主な理由〉

- ・ Wi-Fiの強度、サーバー、セキュリティーなどどれを見ても中途半端だと感じる。ICTが進んでいない、とされる地区では職員にディスプレイがあったり、プロジェクター、安定したワイヤレス接続機器があると聞く。数年前に書画カメラを各教室に導入したが、導入された時から既に使わないデバイスであり、使っている人を見たことがない。予算がない中でのお金の使い方にセンスのなさを感じる。
- ・ Windowsパソコンがないので。
- ・ 予備機が不足。忘れた生徒の対応が全くできない状態では逆に使えない。忘れた生徒の学力保障は？
- ・ 全員にタブレットを配備していることは評価できる。一方で、耐用年数を超えて故障の多いタブレットに対して、代替機が不足することが多い。

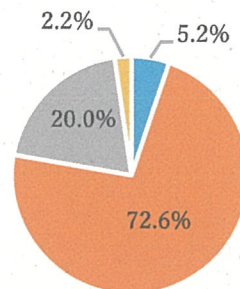
ウ 個に応じた支援の充実

R 6 個に応じた支援の充実



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

R 7 個に応じた支援の充実



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

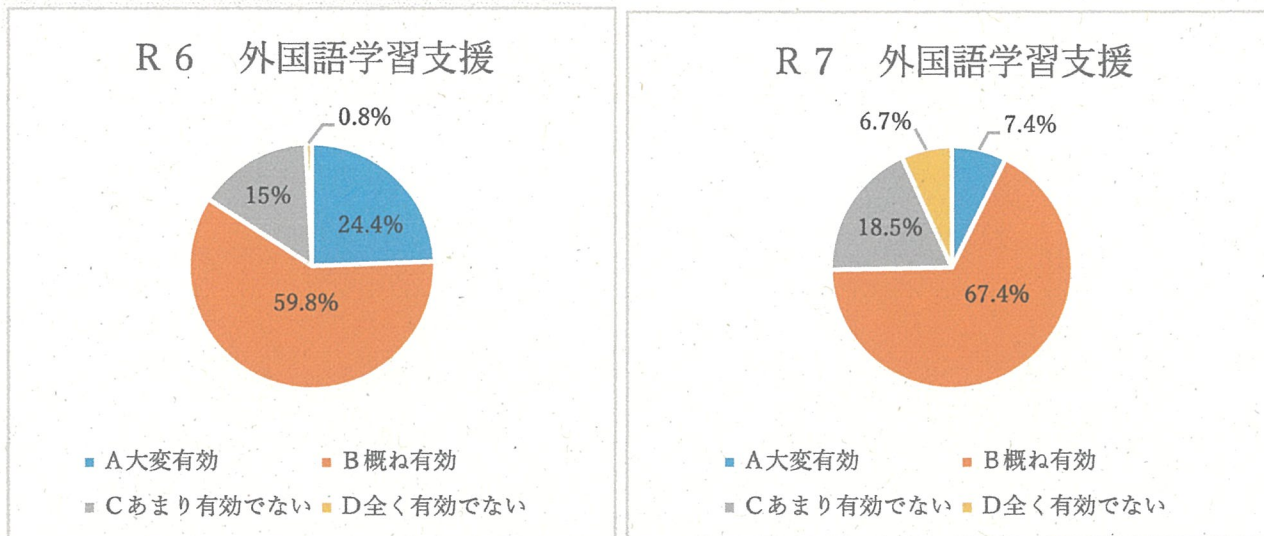
〈Aの主な理由〉

- ・学習支援員さんや、校務支援員さんがいてくださることで、助けていただけることがたくさんあり、本当にありがたく思っている。
- ・支援員さんがたくさんいて、ありがたいから。
- ・人的資本が充実しているから

〈Dの主な理由〉

- ・本校では、自分の教室に支援員さんが来たことは一度もありません。決して必要ないわけでもなく、いるに越したことはありません。また、支援ソフトについてもウインバードが知らず知らずのうちに解約になっていたり（今は戻りましたが）、キュービナという得体のしれない会社の支援ソフトが採択されるなど、本当に大丈夫かと心配になります。
- ・特別支援学級への支援員が少ないため、交流学級での授業の支援が行き届かない。
- ・各クラスに支援を必要とする生徒が5～7人程度存在しているにも関わらず、担任一人で見取るしかない状況。保護者の理解もなかなか進まない。担任の手腕と見られがちだが、適切な支援が受けられるような体制づくりを行ってほしい。
- ・まず個々に必要な支援が多岐にわたっている。中には「それは支援しすぎでは？」と感じる事案もある。少ない人員で対応せざるを得ない状況の中で、人員の更なる増加と、支援の仕分けを考えていく段階に入っていると感じる。
- ・保護者がインクルーシブ教育の推進を願って、本来支援学級で学ぶことが適切な児童が、通常学級を希望するケースが以前よりも増えてきています。そのような児童への対応を学級担任だけで行うことは難しく、支援員がいてくれたらありがたいなと感じています。

## エ 外国語学習支援



### 〈Aの主な理由〉

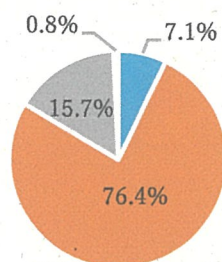
- ・たいへんありがたく感じている。要望としては、保護者の片方が日本人であると、外国語学習支援に繋がれないことがある。父が日本人、母が外国人だった場合、家庭での生活言語が母の母国語である場合があり、そうした児童に対しても外国語学習支援が必要だが繋がっていない。学校からの要望でそうしたケースも対応してほしい。
- ・言葉の壁の問題は大きく、取り出しでその子にあった学習をしてもらえることは、子供にとっても大切な時間になっている。
- ・クラスでは限られた時間の中ではなかなか見てあげられない外国児童を、グローバル教室で取り出して丁寧に見てくれてありがたいし、子供たちの学びにつながっている。
- ・グローバル教室などに日本語指導ができる環境と人材があるため。
- ・専門に指導していただけることで、子供にとってはより深い学びができ、教師にとっては他の校務、授業の準備に専念できる。
- ・ALTの全校配置は授業の充実に繋がっていると考えます。
- ・日本語があまり話せない生徒に対し、グローバル教室での授業を十分に確保できている。

### 〈Dの主な理由〉

- ・必要な子供がいるにも関わらず、自彊小には外国語の支援員がいないに等しい。子供がいる時間に学校にいる支援員が必要。
- ・外国籍が増加していく中で、専門の担当がいてくれることはありがたい。が、学習意欲がないままに学校に在籍するが、登校しない生徒が増えている。そんな生徒・保護者への対応が難しい。どこまで対応すればいいのか……。通訳さんに多く関わってほしい。
- ・全く日本語を話せない生徒が多数いる。どこかで日本語を学習する機会や場所を通してから学校という選択はないだろうか。
- ・英語対応は可能だが、ポルトガル語などはそもそも指導が通らない。普段はGoogle翻訳を活用しているが、うまく伝わらない文化的な部分もあるような気がしている。
- ・外国人生徒が学ぶ機会を失わず、不利益を被らないように、早急な整備が必要。
- ・外国人相談員の勤務が少ない。町から配られるプリントの外国語翻訳が足りていない。
- ・様々な外国籍の生徒がまず日本語を理解したり、日本の習慣に馴染めたりできるような働き掛けがほとんどできていない。個々の担任に任されている現状。

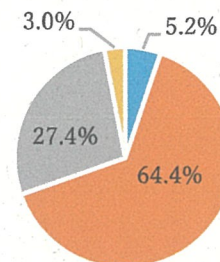
## オ 学ぶ力と郷土愛を育むための支援

R 6 学ぶ力と郷土愛を育むための支援



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

R 7 学ぶ力と郷土愛を育むための支援



■ A 大変有効      ■ B 概ね有効  
■ C あまり有効でない      ■ D 全く有効でない

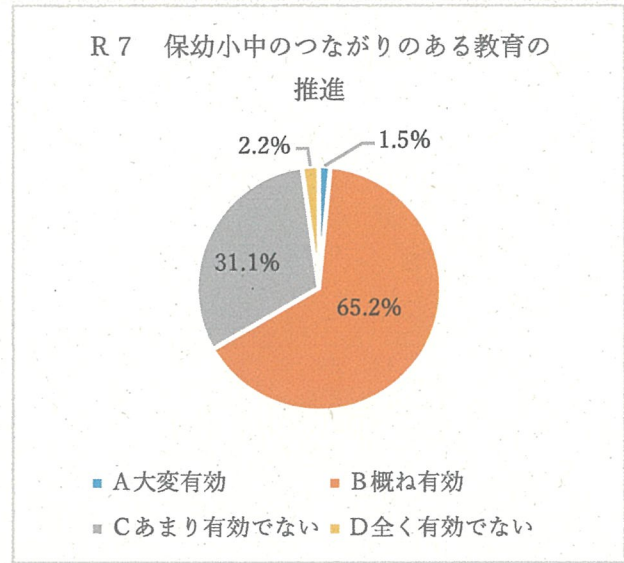
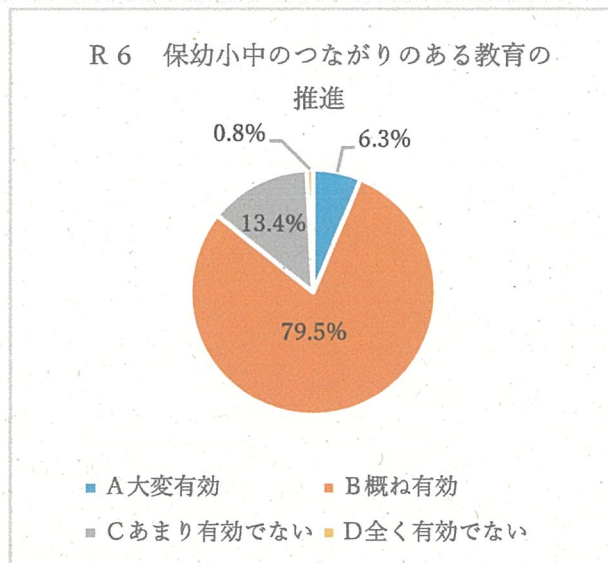
### 〈Aの主な理由〉

- ・吉田が大好きだという子が多い。地域を知ることによって、より好きになっているように感じる。
- ・CSDさんとの連携もあり、継続的に今後も続けられたらありがたいです。吉田町にある企業が素晴らしいことを私も学ばせていただいています。

### 〈Dの主な理由〉

- ・総合的な学習を自由に学んでよいという時間と少しずつも学習するテーマが既に決まっていることがまずもって疑問に思う。数年で変わるならまだしも、ほぼずっと同じテーマなので代り映えも改善もないように思う。
- ・もっと伝統文化を大切にしたい教育が必要だと感じる。
- ・学ぶ力は伸びているが、郷土愛の伸びは想定よりも少ないのではないのでしょうか。
- ・クロムブックの弊害もあると思うが、自分で考えて答えを導き出す姿勢が極端に減り、答えらしきものを見つけて右から左へコピーして学習が済んだと思っている生徒が非常に多い。

## カ 幼保小中のつながりのある教育の推進



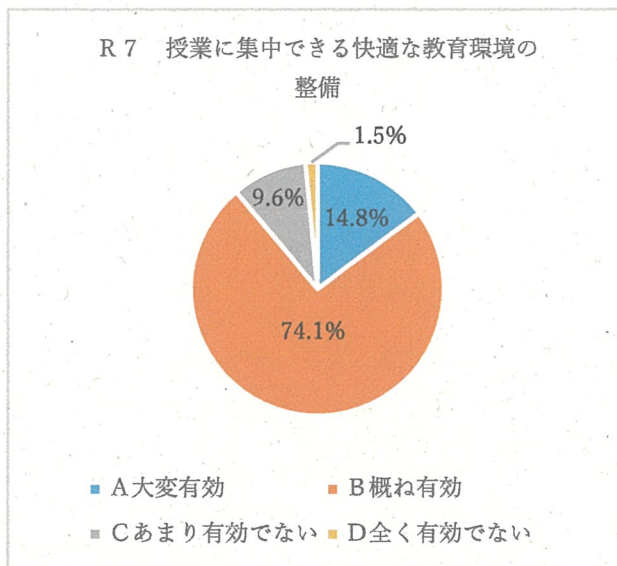
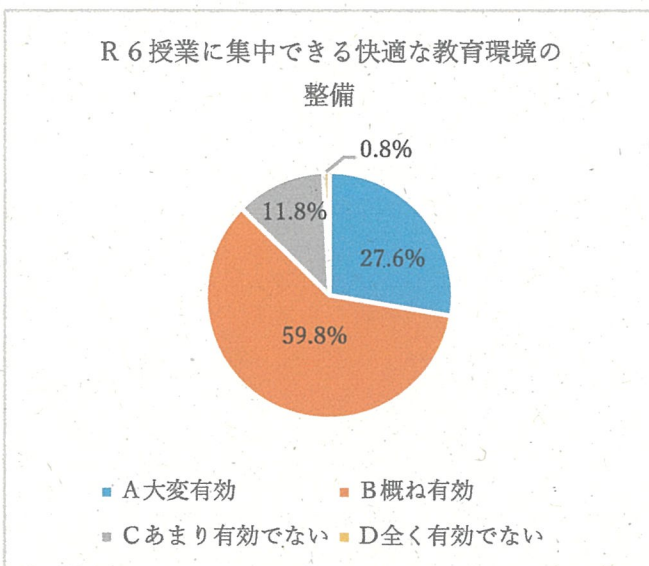
### 〈Aの主な理由〉

- ・全体の学習の流れが見えるので、安心して送り出せる感じがします。
- ・個別の教育支援計画を保育園、幼稚園で作成していただきありがとうございます。今後、5歳児健診が始まることで更に増加が予想されますが、早期支援につなげていければと思っています。

### 〈Dの主な理由〉

- ・根っこは同じでつながっているはずなのに、この考えがあまり浸透していない。もったいないと思う。幼稚園、保育園の先生の支援を学ぶべき。
- ・保育園や幼稚園とのつながりが希薄。
- ・効果を分析していて、実際に有効である施策なのか疑問に思います。少なくともその効果や、実績を聞いたことがありません。
- ・チャットの普及・活用によって、各学校の内情が「見える化」されてきたが、指導の一貫性はとれていない。町全体で進めている学習方法も薄れつつある。次のステップに…という方向性ならよいが、諦め視点の教員がいるのは悲しい。
- ・幼稚園・保育園の先生方の意識が高い。受入側の小学校がもっと意識すべき。小学校と中学校のつながりも同様に感じます。
- ・個々の指導や支援に本当に必要な情報が持ち上がってきているのかを精査したい。特に、その子供の置かれた環境に対して、指導者チームがどのようなスタンスで接してきたか。その結果、どのような改善や停滞が現れてきたのかを共有したい。家庭環境については役場の「こども未来課」が深く立ち入って得た情報を上げていただきたい。家庭訪問という取組がなくなった今、その情報はかなり重要ではないかと考える。

## キ 授業に集中できる快適な教育環境の整備



### 〈Aの主な理由〉

- ・自分は「快適」だと考えます。これだけ整えてもらっているのに結果が出ていないということに申し訳なさを感じています。ベクトルを揃えることは難しいですが「多様性の時代」、これが当たり前なのかもしれません。吉田町が目指す教育について合意形成を図りながらやっていく。推進している人、反対している人、それ以外の人、互いに対話することが求められているのかな。ここを乗り越えられたら、いいなあと思います。
- ・体育館のエアコンの設置は防災の視点からも本当にありがたい。
- ・全教室の空調、大型TVが設置してあるため。
- ・教室から体育館まで、エアコンが設置されていることは大変ありがたい。
- ・冷暖房、ICT等、様々な点で考えていただけていると思う。
- ・視覚情報、学びに適した環境や雰囲気づくりが実際とても大切です。
- ・報告・提出書類が必要最小限だから。
- ・SSSさんたちの力が支えになってくれていると感じます。
- ・校務支援の方々のおかげで、教員が授業に関わる時間が増えている。
- ・冷暖房が完備されている教室で授業を行えること。
- ・エアコンの完備だけでも、とっても素晴らしいと思います。
- ・空調を含め、授業に集中できる環境を積極的につくってくださっている。感謝している。

### 〈Dの主な理由〉

- ・教科書、ノート、資料集、電子黒板、黒板、クロムブックと情報が多すぎる。クロムブックで授業とは直接関係のない調べ物をしている生徒等も見られる。
- ・高学年の教室のエアコンの効きが悪く、19℃に設定しても汗ばむ中で授業をやっています。雨漏りも校舎内、体育館などところどころ発生していて、改修もされることがないので、快適であるとは言い難いです。
- ・空き教室不足。更衣室が足りない。